

11月29日(日)開催 ●HNSM企画例会
アンコール山行／ふるさと兵庫100山
「篠山の名峰・白髪岳へ」

布引支部 福永 誠

11月27日付「コロナ感染急拡大！ 第3波に対するヒヨコ登山会としての対応」が出状されましたが、本山行については参加者少人数のため予定通り開催される運びとなりました。

(昨年9月22日に第3076回単独例会として実施されましたが好評であったため、HNSM企画例会としてアンコール開催することとしたものです。)

さて、当日はJR福知山線古市駅に午前9時集合。参加者は保久良支部より5名、布引支部5名、旗振支部1名、外部参加1名、合計12名の選ばれし(但し、自薦)人たちでした。

まずは電車とは逆方向(西方)の住山集落に歩を進めます。左右の道には、かつて源平の戦いが行われたとの説明書きが所々目に付きます。

住山集落の中ほどには立派な皇帝ダリアがピンクのきれいな大輪の花を咲かせていて、我々一行を歓迎してくれているようでした。(写真①、②)



見事な花・皇帝ダリア①



住山の里を行く②

集落の奥にある農家の辺りで道が2本に分かれています。「左 白髪岳、右 松尾山」の道

標を左へ。栗畑の間を歩きながら、「去年来た時はまだ栗が青かった」だの、「『たとえ落ちていようとも持ち帰ったら犯罪や』と誰かが言っていたなあ〜とか、去年の山行を思い出して話をしているうちに登山口の手前の東屋に到着。

厳選された精鋭が集まっているため、小休止の間に参加者から回ってくるお菓子が途中で売り切れになることもありませんでした。(笑)



姿勢良く登る、Iさんでした！③

さて、杉林の中を進んで行くとやがて尾根への直登路となり、急な登りが続きます。やや遅れ気味のI藤女史にペースを合わせながらゆっくり歩きます。途中で何度か後続のグループに道を譲りながらも何とか尾根に出て小休止。

ここから緩やかな斜面の尾根道をしばらく進むと前方に白髪岳の岩尾根が見えてきました。三点確保の指示を守って岩をゆっくり這い登ります。(写真③)

「去年は岩登りの好きなK野女史が驚くべき速さで真っ直ぐに登って行ったよなあ！」との

誰かの声を聞きながら我々はロープ、鎖のある迂回ルートを慎重に登攀。ここを登りきると山頂まではあとわずか。



白髪岳山頂にて・最高のお天気でした！！④

山頂に着くと予想通り、何組かの登山愛好家グループがお弁当を広げていたため、360度の大パノラマをゆっくり満喫することもなく、記念写真もそこそこに北へ急坂を下ることにしました。(写真④)

少し登り返すとなだらかな尾根道となるのでここでランチタイム。

K村女史がいつものように用意してくださった大量のおかずを、いつものように頂きました。これも山行の楽しみのひとつです。K村女史、いやお姉さま、ごちそうさまでした。

十分に燃料を補給し、元気が出てきたところで出発進行。約30分、道を下ると分岐点に到着します。昨年はここを左にとって文保寺方面に向かいましたが、本日は進路を右にとって急坂を登り、一路松尾山へ。普通ならみんなに遅れを取るまいと黙々と歩を進めるところですが、この日はマイペースのI藤女史を小Sさんと二人でサポートするという大義名分ができたため、ゆっくり余裕を持って松尾山頂(酒井城跡)に到着することができました。



松尾山(しょうびざん・高仙寺山)山頂にて⑤

ここで2回目の集合写真です。(写真⑤)念のため続けて2枚撮り、「さて小生も入れてもらって・・・」と思ったら吉野会長が「ちょっと・・・」と用足しに行かれました。直ぐに戻ってこられたもののそのまま出発。お陰で松尾山登頂のアリバイがなくなりました。(泣)

その後、千年杉前で会長の『年頭所感』用の写真を撮り、卵塔群へ。(写真⑥)

これは山中のあちこちに散在していた卵塔(僧侶の墓)をこの場所に集めたものと言われ、仏教修行の場として多くの僧が学んでいたことを物語っています。

苔むした卵塔を見ると『大阿闍梨〇〇〇〇』等々と彫られていますのでいずれも偉いお坊様の墓碑なのでしょう。



めずらしい卵塔(らんとう)群を見学

この辺りからは比較的楽な道が住山集落まで続いています。それぞれが会話を楽しみながらゆっくり里まで下りてくると「急げ!」との声が。帰りの電車の時間が差し迫っているようです。

そこで一同、歩を早めて、朝降り立ったJR古市駅へ向かいます。

途中の道から少し斜め右前方にコンビニが見えましたがT田さんから「先輩、寄っていたら電車に間に合いませんよ」と心の中を見透かされ、泣く泣く駅に向かいました。ところが駅が見渡せる場所に来て愕然。まだ出発まで時間があるはずなのに電車が駅に到着しているではありませんか。

実は、会長が、メモしていた上りと下りの時間

を見間違えておられたらしく、次の電車までまだ25分ほどあることが判明しました。

そうなれば自然と足は駅とは反対方向の、先ほど見掛けたコンビニへ。しっかりアルコール類とおつまみを調達し、みんなの待つ駅に意気揚々と戻ります。ここで電車の時間まで残り10分ちょっとでしたが、「電車飲み」するつもりで買ったアルコールは「駅前飲み」で空になってしまいました。三田駅で神鉄に乗り換える際、追加のアルコールを買い込み、神鉄で「電車飲み」を続けたのは言うまでもありません。



天候 晴れ

参加者 12名（内当会員11名）